

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 2科目で150分  
現代システム科学域は1科目で90分

## 解答形式

選択, 計算, 記述, 論述, 描図

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

## 出題の特徴や昨年との変更点

大気海洋分野からの出題はなかった。

## その他トピックス

前年と比べて論述問題が減少し, 論述問題の指定語や字数制限がなくなった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
第1問	選択 計算 記述 論述	地質断面図	地学	問2は, 問題の図1に加えて問題文の磔 <small>れき</small> に関する記述を読み落とすことのないように。 問4は確実に得点できるように。 問5(2)は地殻変動が生じた時期を明記すること。	やや易
第2問	記述 論述 描図	プレートテクトニクス	地学	問1は取りこぼすことのないように。 問2(1)と(2)は解答欄の大きさから答える文章量を考え, 手短かにまとめるように。 問2(3)は, 斑晶と石基の特徴を描くのは必須である。難しいが可能であれば, へき開や多色性など各鉱物の特徴を示せると, さらに良いだろう。	標準
第3問	記述 選択 論述 計算	天球 太陽	地学	天球からの出題は珍しい。 問題文に方角が示されているので, 問3を間違えることは厳禁である。 問5はウィーンの変位則の定数を覚えていなければならぬ。また単位をつけて答えること。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

論述問題や計算問題で差がつきやすいのは事実だが, 基礎的な知識問題の占める比率も高い。これらを確実に正解することが重要である。

論述問題は, 字数制限のあるものとなないものとの両方が出題される傾向にある。字数制限がないものは, 解答する文章量で悩むかもしれないが, 解答欄の大きさから求められる文章量を考え, 短か過ぎず冗長にもせず適度な量でまとめられるようにしよう。

計算問題は難度の高いものは出題されにくく, 立式しやすいものが出題される。練習問題を数多くこなしておけば, 解く時間も短縮できるだろう。

教科書や図録などにしっかりと目を通し, 全分野に関して問題を解いておくことが大切である。